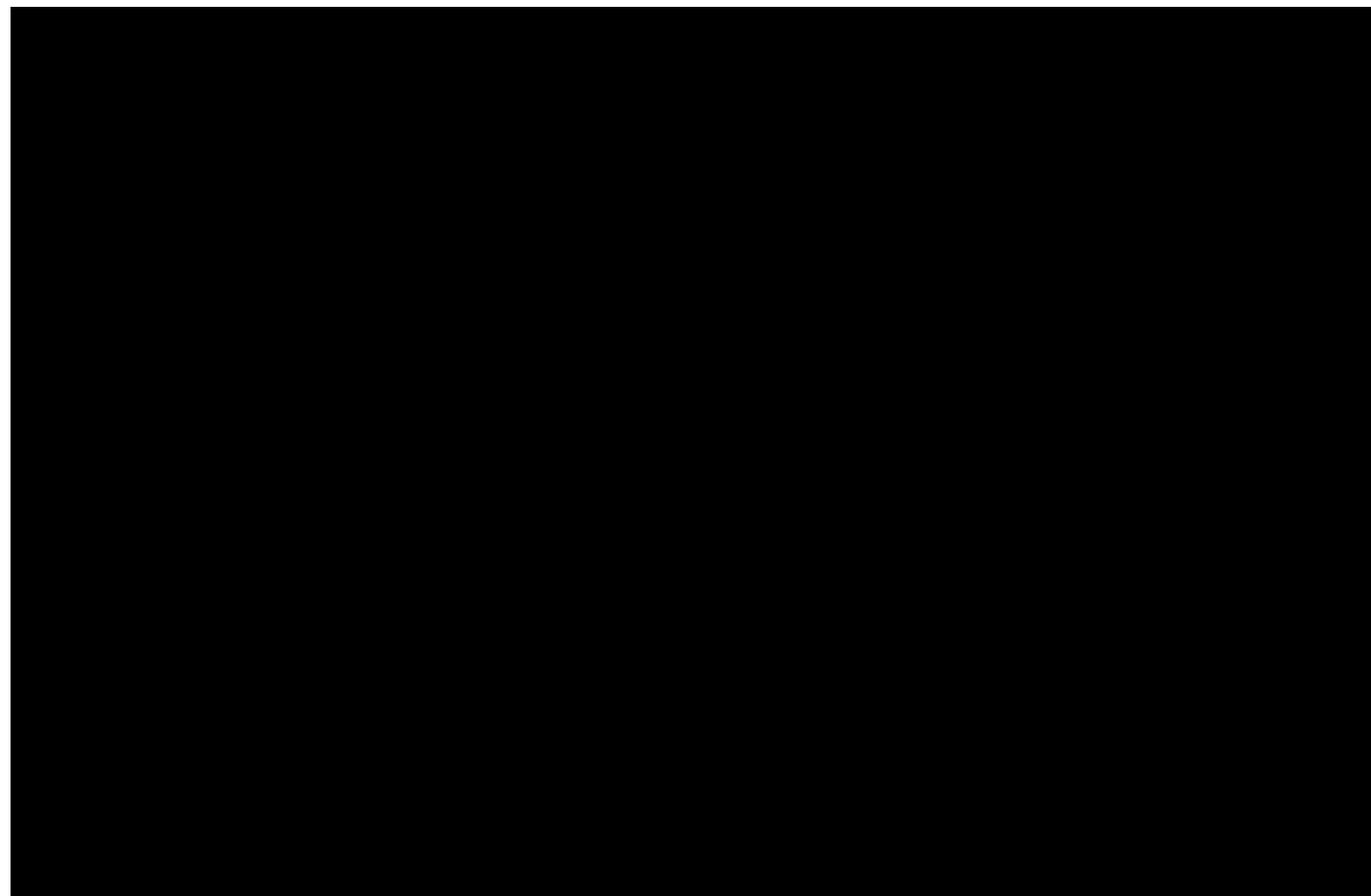


龍門寺の前にある「龍門の滝」は禪庭園発祥の地とも言える。



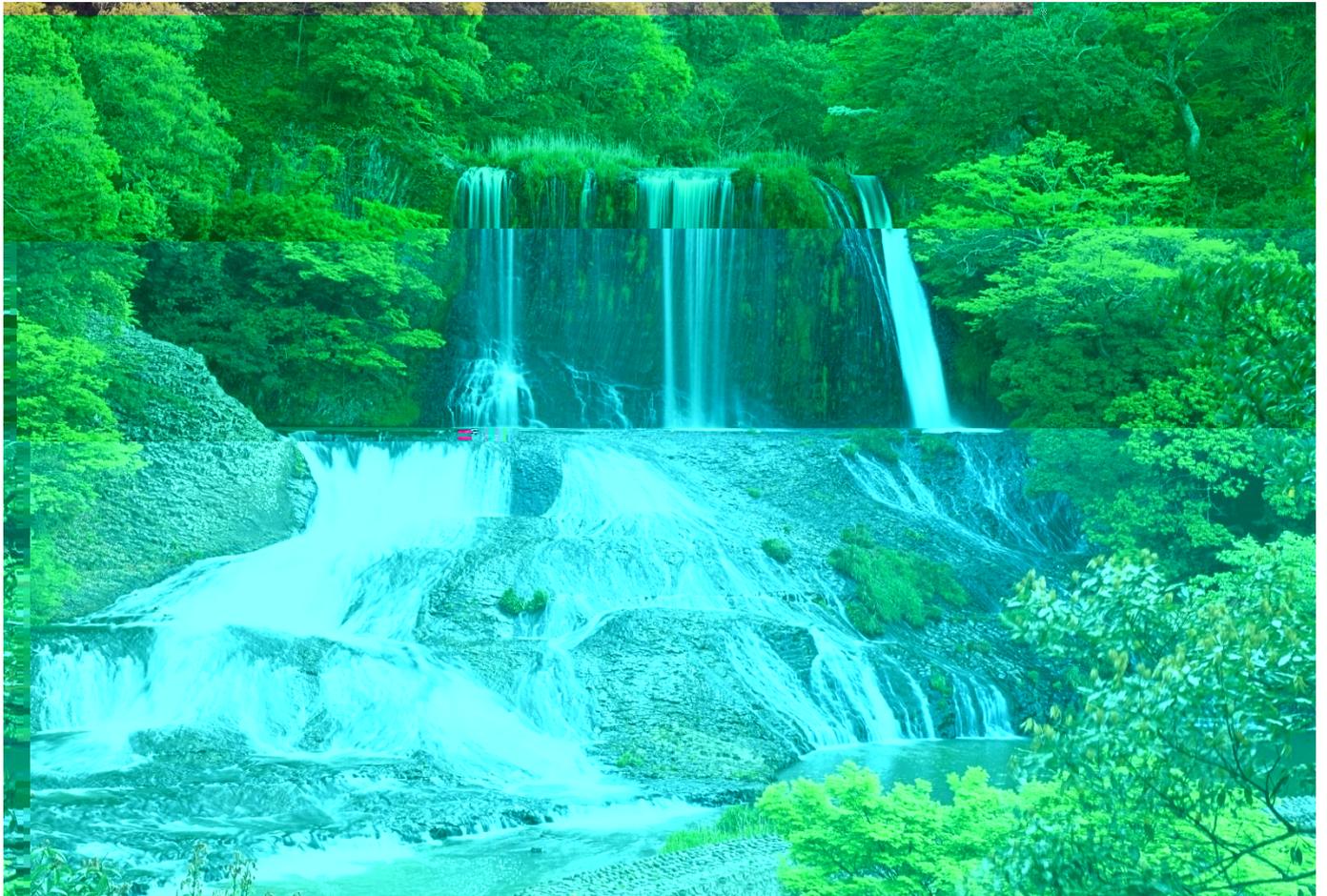
1247年上洛するために円通寺を出て、途中大分県の九重町で滝に出会い「龍門の滝」と命名した。そして滝の正面に龍門寺を創始して、弟子の南岳をここに残して京都に発ったという。



龍門寺の本堂より：溪谷を流れる龍門瀑は水平な二段の滝である。全く手つかずの溪谷に落ちる滝音は樹木に覆われた深い谷に木霊する。圧倒的な迫力と清らかな水の音を聞いているだけで心が穏やかな気持ちになってくる。



龍門瀑の故郷は黄河上流の龍門にあり「龍門飛瀑」と言われる滝である。ただし中国の滝は正面から見る事が出来ないし、茶色に濁った瀧では清涼感が得られない。その点、球珠郡九重町の「龍門の滝」は**禅觀境を無染にする事によって、臨濟宗の禅の悟りとされる自分が清浄身であることを自覚する、**には最適の地である。



中国の故事にある「登龍門」の由来である鯉が、三段の滝を登って将に龍に化す様を現している。中国南宋よりの帰化僧の蘭溪道隆禅師が中国の故事にある登竜門（鯉が死を賭してまで竜になるべく努力するさま）にならって、修行僧が観音の知恵を得る（悟る）まで、努力をしなければならぬことを日本庭園の形で教えている。